【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成24年5月31日(2012.5.31)

【公表番号】特表2010-524649(P2010-524649A)
【公表日】平成22年7月22日(2010.7.22)
【年通号数】公開・登録公報2010-029
【出願番号】特願2010-506491(P2010-506491)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　2/06　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　17/32　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　17/11　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ　2/06
Ａ６１Ｂ　17/32
Ａ６１Ｂ　17/11

【手続補正書】
【提出日】平成24年4月4日(2012.4.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
第１の表面および第２の表面を有する組織壁内に導管装置を移植するためのシステムにおいて、
軸方向に貫通しているガイド開口を画定している外管と、
前記外管の遠位端から延在している取付け装置であって、前記取付け装置の少なくとも一部が前記組織壁の前記第１の表面と前記第２の表面との間に実質的に配置されるように、前記組織壁内を少なくとも部分的に前進するように構成されている、取付け装置と、
前記組織壁の前記第１の表面と前記第２の表面との間に流体連通をもたらすために、前記ガイド開口を貫通するように且つ前記組織壁を少なくとも部分的に貫通するように構成されている内管とを備え、
前記取付け装置は、前記組織壁の少なくとも一部を半径方向内方に前記内管の外面に向かって圧縮するように構成されていることを特徴とするシステム。
【請求項２】
前記取付け装置は、前記組織壁の少なくとも一部を半径方向内方に前記内管の外面に向かって圧縮するように構成され、これによって、前記内管の前記外面と前記組織壁の前記一部との間に実質的に液密のシールをもたらしていることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。
【請求項３】
前記取付け装置は、前記組織壁を突き刺すのに適した鋭利な端を備えていることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。
【請求項４】
前記取付け装置は、少なくとも１つの螺旋状コイルから構成されていることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。
【請求項５】
前記取付け装置は、前記螺旋状コイルが前記外管の前記遠位端から離れて延長するにつ

れて拡がる半径方向に拡がっている螺旋状コイルから構成されていることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。
【請求項６】
前記取付け装置は、複数の螺旋状コイルから構成されていることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。
【請求項７】
前記組織壁の前記第１の表面と前記第２の表面との間の流体連通を選択的に閉鎖するために、前記導管装置によって画成された前記開口をカバーするように構成されているキャップをさらに備えていることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。
【請求項８】
前記キャップは、再使用可能なポートを備えていることを特徴とする、請求項７に記載のシステム。
【請求項９】
前記外管の外面の周囲に操作可能に係合され、前記組織壁の前記第１の表面に対して配置されるよう構成されているリングをさらに備えていることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。
【請求項１０】
前記リングは、心臓の心尖部の前記組織壁の前記第１の表面の少なくとも一部を受け入れるように構成された截頭円錐アセンブリを備え、前記截頭円錐アセンブリと前記心臓の組織壁との間に実質的な液密のシールを形成するようになっていることを特徴とする、請求項９に記載のシステム。
【請求項１１】
前記リングから延在し、前記リングと前記組織壁の前記第１の表面との間を少なくとも部分的にシールするように構成されているシール部材をさらに備えていることを特徴とする、請求項９に記載のシステム。
【請求項１２】
前記装置は、前記組織壁の前記第１の表面と前記第２の表面との間の流体連通を選択的に閉鎖するための弁をさらに備えていることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。
【請求項１３】
前記導管装置は、
心尖大動脈導管、
バイパス、
心臓弁の修復または置換、
心室補助装置の取付け、
融除、および
それらの組合せ
からなる群から選択された医学手術用の導管をもたらすように構成されていることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。
【請求項１４】
前記導管装置は、
心臓、
膀胱、
胆嚢、
隔膜、
胸腔、
腹腔、
腸管構造、および
盲腸腔
からなる群から選択された解剖的構造における医学手術用の導管をもたらすように構成されていることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項１５】
前記組織壁を通って前進し、前記組織壁に開口を画定するように構成された芯抜き装置であって、前記組織壁の前記第１の表面と前記第２の表面との間に流体連通をもたらすために、前記内管が前記開口を少なくとも部分的に貫通すべく、前記内管を前記開口内に運ぶようにさらに構成されている、芯抜き装置をさらに備えていることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。
【請求項１６】
前記芯抜き装置によって画定された芯抜き孔内において摺動自在に前進および後退することができる突刺しロッドをさらに備えており、前記突刺しロッドは、その遠位端に操作可能に係合され、前記芯抜き装置によって除去された組織芯部を軸方向に保持するように構成され、前記突刺しロッドは、前記組織芯部の除去の前に、前記組織壁を突き刺すために前進するように構成されており、前記突刺しロッドは、前記組織芯部が前記芯抜き装置の近位端を介して回収可能となるように、前記組織芯部の除去の後、後退するようにさらに構成されていることを特徴とする、請求項１５に記載のシステム。
【請求項１７】
心尖部ピアスをシールするためのシステムにおいて、
軸方向に貫通しているガイド開口を画定している外管と、
少なくとも１つの螺旋状コイルを備え且つ前記外管の遠位端から延在している取付け装置であって、前記取付け装置の少なくとも一部が前記組織壁の前記第１の表面と前記第２の表面との間に実質的に配置されて前記心尖部組織において実質的な液密のシールをもたらすべく、心臓の心尖部の前記組織壁内を少なくとも部分的に前進するように構成されている、取付け装置と、
前記ガイド開口を通って前記心臓の前記心尖部内に前記心尖部ピアスを案内するための要素と、を備えていることを特徴とするシステム。
【請求項１８】
前記取付け装置は、前記螺旋状コイルが前記外管の前記遠位端から離れて延長するにつれて拡がる半径方向に拡がっている螺旋状コイルから構成されていることを特徴とする、請求項１７に記載のシステム。
【請求項１９】
心室間修復を可能にすべく、心室アクセスと心臓の心室を介しての連通のための心尖部ポートを固定するように構成されている少なくとも１つの螺旋状コイルを備えていることを特徴とする、心臓の心尖部アクセスと閉鎖のためのシステム。
【請求項２０】
心室間修復後に、前記心尖部ポートを閉鎖するシール部材を提供するようにさらに構成されていることを特徴とする、請求項１９に記載のシステム。